



日本海藻協会ニュース

2009年8月15日

・協会事務局から

1. 秋季藻類シンポジウム

2009年秋季藻類シンポジウム「伝統的なアジアの藻類文化」を10月9日(金)午後2時-5時に学士会館(東京・神田)で開催します。講演は「メコン川流域の藻食文化 - 板海苔状カイペーン - 」(講師:京大・鯉坂哲朗氏)と「日本人の海藻利用 - 神代への旅 - 」(講師:富山大・濱田仁氏)が予定されています。参加費無料(ただし、講演集は1部1,000円)。シンポジウム終了後に懇親会が開催されます(会費:1人7,000円)。参加申込み(シンポジウム、懇親会とも)は協会事務局(E-mail: jsa@japan-seaweed-association.com)へ。

2. 「海藻資源」の原稿募集

会誌「海藻資源」No.21(12月発行予定)の原稿を募集しています。投稿期限は10月10日です。総説、報告、資料、書評などの原稿を、体裁等は最新号を参考にしてワード形式で作成し(左右2段組にしなくて結構です)、e-mailの添付ファイルとしてお送りください。

・海藻関連ニュース

1. ソルト・サイエンス シンポジウム2009

(財)ソルト・サイエンス研究財団主催のソルト・サイエンス シンポジウム2009「塩と生物」が2009年9月28日(月) 12:30-17:00に早稲田大学国際会議場1F[井深大記念ホール]で開かれます。次の講演が予定されています。
「生物はどのようにして海から陸へ適応したか」(自治医大名誉教授 今井正)
「カリウムの有効性と安全性」(自治医大教授 武藤重明)
「海水で生育するマングローブ植物の生態と現状」(大阪府立大教授 北宅善昭)
「水産発酵食品と微生物」(東京家政大特任教授 藤井建夫)

参加希望者は住所・氏名・氏名(フリガナ)・所属・連絡先電話番号等を明記して下記宛にハガキ、FAX、またはEメールで申し込んでください。締切日 9

月 18 日（先着順 450 名まで）。参加費 無料。

申込み・問合せ先：〒106-0032 東京都港区六本木 7 - 15 - 14 塩業ビル
（財）ソルト・サイエンス研究財団
ソルト・サイエンス シンポジウム 2009 係
FAX 03-3497-5712 TEL 03-3497-5711
Email saltscience@mve.biglobe.ne.jp

2. 第 7 回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議

アジア太平洋応用藻類学会（Asia-Pacific Society for Applied Phycology, APSAP）主催の第 7 回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議（The 7th Asia-Pacific Conference on Algal Biotechnology, 7th APCAB）が 2009 年 12 月 1 - 4 日にインドのニューデリーで開催されます。藻類バイオテクノロジー関連の研究者のみならず技術者、事業主、商社、流通関係者なども多数参加するこの国際会議は、これまでマレーシア、シンガポール、香港、タイ、中国、フィリピンなどで 3 年ごとに開催されてきました。今回はインド藻類学会の世話で、Algal Biotechnology in the Asia-Pacific Region: New Challenges and Opportunities for the 21st Century の標題のもとで開催されます。

発表要旨の受付締切りは 2009 年 10 月 15 日です。参加費は 9 月 30 日以前と 10 月 1 日以後（カッコ内）で異なり、次の通りです。

APSAP 非会員 US\$ 300 (350); APSAP 会員 US\$ 250 (300);

学 生 US\$ 150 (200); 同 伴 者 US\$ 150 (200);

企業関係者 US\$ 700 (1,000)

詳細はウェブサイト www.algalbusiness.com でセカンド・サーキュラーをご覧ください。あるいは arugay@mx4.ttcn.ne.jp にご連絡下さればセカンド・サーキュラーと参加登録様式をお送りします。

3. 海の森づくり第 3 回こんぶサミット（日本海藻協会後援）

NPO 海の森づくり推進協会主催の海の森づくり第 3 回こんぶサミット「豊かな海との共生をめざして：海の森づくり こんぶサミット in 壱岐・（青島）・函館・東京・青森・宇和島」（2009 年 4 月～2010 年 3 月）の詳細は、同協会横浜事務局（Fax: 045-922-3448, e-mail: shujiro.fujino@mbe.nifty.com）に問い合わせるか、ホームページ <http://www.kaichurinn.com> をご覧ください。

東京での開催は次の通りです。

9 月 26 日（土）東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした環境と食育と里村づくり」

(講演とパネル討論)

9月27日(日) 東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした東京湾の環境修復と海の森づくり」 (講演とパネル討論)

4. 第20回国際海藻シンポジウム (XX ISS)

国際海藻協会 (International Seaweed Association, ISA) 主催の第20回国際海藻シンポジウム (The XX International Seaweed Symposium, XX-ISS) が2010年2月21 - 26日にメキシコのエンセナダ (Ensenada, Baja California) で開催されます。会場は大学 (UABC) 近接の海に面した Hotel Coral & Marina (ダウンタウンまでタクシーで約10分) です。登録期限と参加費は、**早期登録** (正参加者 US\$435、学生 US\$275、同伴者 US\$250) が **2009年10月30日まで**、それ以後2010年1月22日までは正参加者 US\$530、学生 US\$375、同伴者 US\$300、1月22日以後は正参加者 US\$600、学生 US\$450、同伴者 US\$350 です。参加費は登録期限までに送金してください (銀行送金のみ可)。参加費には、歓迎レセプション、Mid-Symposium Tour、バンケット、コーヒブレイクなどの経費が含まれています。Proceedings は別途 US\$75 が必要となります。Mid-Symposium Tours として (1) Gray Whale Watching, (2) The Blowhole, (3) The Wine Route, (4) Seaweed Collection and Abalone Farm Visit などが予定されています。ホテルは、ISS 参加者のための特別料金 (1泊 US\$55 ~ 173) が設定されていますが、参加者各自がホテルに直接申込み必要があります。

研究発表の**アブストラクト**送付の期限は**2009年9月30日**です。

詳細は <http://www.xxseaweedsymposium.org> でSecond Circularをご覧ください。

. カレンダー

2009.9.26-27. 海の森づくりシンポジウム (東京 東京海洋大学 品川キャンパス)

2009.9.28. ソルト・サイエンス シンポジウム 2009「塩と生物」 (東京 新宿 早稲田大 国際会議場)

2009.10.9. 2009年秋季藻類シンポジウム「伝統的なアジアの藻類文化」 (東京 神田 学士会館)

2009.12.1-4. 第7回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議 (インド、ニューデリー)

2010.2.21-26. 第 20 回国際海藻シンポジウム (メキシコ、エンセナダ)

・ 会員会社の新製品等の紹介

1. 新刊図書案内

今田千秋(著)海の微生物の利用 - 未知なる宝探し - . 成山堂書店(2009).
四六判・140頁・定価1,680円 .

(独)国立環境研究所地球環境研究センター(編著)ココが知りたい地球温暖化 (気象ブックス026). 成山堂書店(2009). 四六判・202頁・定価1,890円.

近藤洋輝(著)地球温暖化予測の最前線 - 科学的知見とその背景・意義 - . 成山堂書店(2009). A5判・276頁・定価3,780円.

2. 「海藻ドレッシング」新発売

(株) 浜田屋本店は、平成 19 年度の「淡路島ソース」に続き、淡路島の海藻を使った「海藻ドレッシング」の発売を新たに開始しました。平成 20 年度兵庫県補助事業のもとに開発されたもので、原材料に淡路島海域で育った鳴門ワカメ、ホンダワラ、アカモク、スサビノリに加え、北海道産のマコンブを使用しています。(詳細は添付ファイル参照)

・ 海藻 Q & A

Q19 - 「みずこんぶ」(水こんぶ)とは？

A - 天然のコンブは発生後最大 4 年目まで生存するといわれているが、葉状部が肉厚のコンブになるのは 2 年目以後である。1 年目の葉状部は肉が薄くて柔らかく、単位面積当たりの重量が軽い(細胞内容が充実しておらず「実入り」がよくない)コンブであり、このようなコンブは「みずこんぶ」と呼ばれてきた。出し昆布や昆布の佃煮に用いられるのは 2 年目以上の「実入り」のよいコンブである。コンブ養殖が行われるようになってから研究が進み、2 年かけないでも「実入り」がよくなる「促成栽培」の技術が開発され北海道などで実用化されている。

しかし、近年、一般家庭では料理に時間をかけることが少なく、コンブを長時間かけて煮ることが敬遠される傾向が強くなり、1 年ものの柔らかいコンブをワカメなどと同じように短時間煮て食べることが普通になっている。このため、1 年ものの養殖コンブの利用と販路が拡大されるようになった。従って、1 年ものが「みずこんぶ」と呼ばれることは殆んどない。ちなみに、初めてのコンブ養殖の試みは 1960 年代に瀬戸内海で行われ、収穫も行われたが、当時 1 年コンブは「“水こんぶ”など利用価値がない」として

見向きもされない状況にあった。

これまでのQ & A

- Q1 - 「海藻」と「海草」は同じですか。(No.2 に掲載)
- Q2 - ノリの「色落ち」って何ですか。(No.2 に掲載)
- Q3 - 海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q4 - コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か (No.3 に掲載)
- Q5 - 海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q6 - テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載)
- Q7 - 「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載)
- Q8 - 「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載)
- Q9 - 日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載)
- Q10 - 「髪菜(はっさい)」は海藻ですか？(No.7 に掲載)
- Q11 - 中国で栽培(養殖)されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載)
- Q12 - 「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載)
- Q13 - 「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載)
- Q14 - 「鰯浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載)
- Q15 - 日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載)
- Q16 - 「磯焼け」って何？(No.13 に掲載)
- Q17 - 「寒天」と「ところてん(心太)」はどう違うのですか？(No.14 に掲載)
- Q18 - 「はんぱ」って何？(No.15 に掲載)

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月1回(毎月15日付で)発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F
マリン・サイエンス株式会社 内

日本海藻協会事務局

編集者：有賀祐勝 (arugay@mx4.ttcn.ne.jp)